

現行「長期教育計画」（「教育県大分」創造プラン2016）総括
～新たな計画の策定に向けて～

【現行計画の最重点目標と基本目標の達成状況】

最重点目標	「全国に誇れる教育水準」の達成	・・・ P 1
基本目標 1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	・・・ P 3
基本目標 2	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成	・・・ P 5
基本目標 3	安全・安心な教育環境の確保	・・・ P 7
基本目標 4	信頼される学校づくりの推進	・・・ P 9
基本目標 5	変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援	・・・ P 11
基本目標 6	文化財・伝統文化の保存・活用・継承	・・・ P 13
基本目標 7	県民スポーツの推進	・・・ P 15
基本目標 8	世界に羽ばたく選手の育成	・・・ P 17

最重点目標：「全国に誇れる教育水準」の達成

◎学力（小6・中3）

指標1 児童生徒の学力（全国平均正答率との比）

<主な成果と課題>

- ◆ 学力は小学校で全国平均正答率を上回る水準に向上した。一方で、中学校では教科により学力の定着に差がある。

<新たな計画の策定に向けて>

- ✓ 育成を目指す3つの資質・能力のうち、減少傾向にある学習意欲（「学びに向かう力、人間性等）の向上が必要
 - 罫 最重点目標に引き続き設定

◎体力（小5・中2）

指標2 児童生徒の体力（総合評価C以上の児童生徒の割合）

<主な成果と課題>

- ◆ 全国的に高い水準を維持しているものの、平成30年度をピークに割合は低下傾向にある。

<新たな計画の策定に向けて>

- ✓ 運動の苦手な子どもの割合は増加傾向、運動実施時間も低下傾向
 - 罫 最重点目標に引き続き設定

◎未来を切り拓く意欲（小6・中3）

指標3 未来を切り拓く意欲を持つ児童生徒の割合

<主な成果と課題>

- ◆ 段階的な向上を目指していたが、年度によって割合の増減があり、目標値を上回ることができなかった。

<新たな計画の策定に向けて>

- ✓ 我が国では、社会の形成に主体的に参画する意識が低いことが指摘されており、本県においては、将来の夢や目標を持っている割合が低下傾向
 - 罫 最重点目標に引き続き設定

◎グローバルに活躍する力（高2）

指標4 グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合

<主な成果と課題>

- ◇ グローバル人材として活躍するための素地を備えた割合は約6割を超えて、増加傾向にある。

<新たな計画の策定に向けて>

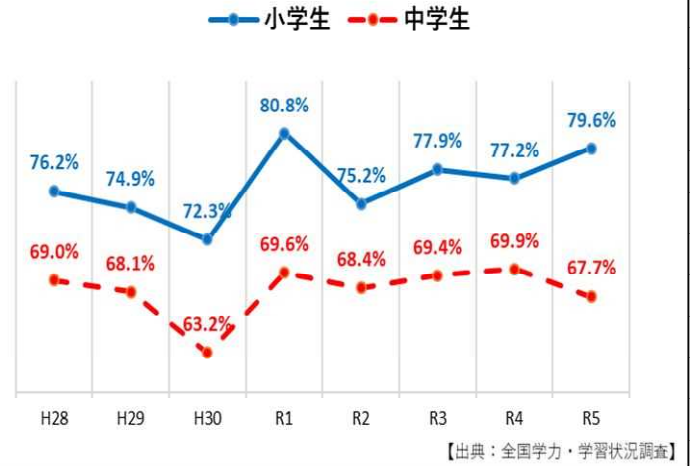
- ✓ 他国を尊重する態度や新しい価値を創造する力、英語力（語学力）を用いたコミュニケーション能力などの育成が必要
 - 罫 グローバルに活躍するための基盤となる語学力の指標を設定
 - 指標4 中学校卒業段階でCEFRのA1レベル（英検3級）相当以上を達成した中学生の割合
 - 指標5 高校卒業段階でCEFRのA2レベル（英検準2級）相当以上を達成した高校生の割合

参考データ（現行計画目標指標の推移）

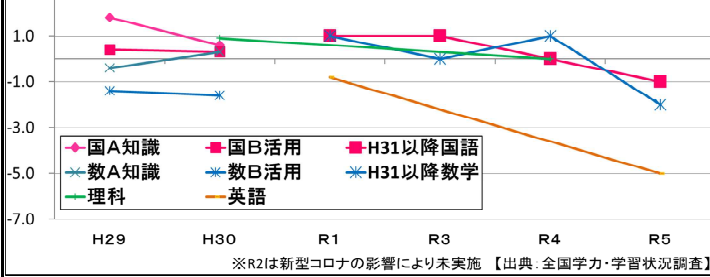
児童生徒の学力 （全国平均正答率との比）（%）



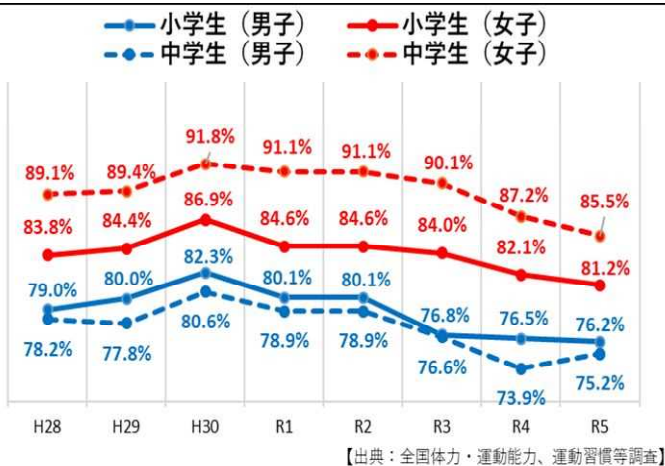
未来を切り拓く意欲を持つ児童生徒の割合（%）



<参考> 中学校第3学年 教科別 全国平均正答率との差の推移



児童生徒の体力（総合評価C以上の児童生徒の割合）（%）



グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合（%）



基本目標 1	子どもの力と意欲を伸ばす学校教育の推進	
	施策	1 確かな学力の育成
		2 豊かな心の育成
		3 健康・体力づくりの推進
		4 幼児教育の充実
		5 進学力・就職力の向上
		6 特別支援教育の充実
		7 時代の変化を見据えた教育の展開

<目指してきた方向性>

- 小・中学校での「学びに向かう力」と「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」の育成及び、高校での「知識及び技能」を活用した「思考力、判断力、表現力等」や「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の育成
- 道徳教育や読書活動、体験活動の推進等を通じた豊かな人間性や社会性の育成
- 体力向上及び、健康課題の解決による健やかな身体づくりの推進
- ICTを活用した教育の推進など、時代の変化を見据えた教育の展開

<主な成果と課題>

- ◆ 学力は小学校で全国平均正答率を上回る水準に向上。一方で、中学校では教科により学力の定着に差がある。【データ1-1】
- ◆ 高校生の不読率は緩やかに減少傾向にある。小中学生は横ばいで推移していたが、令和5年度は大きく上昇した。【データ1-2】
- ◆ 体力は全国的に高い水準を維持。一方で、肥満傾向児の出現率や12歳児のむし歯本数は全国平均より多い。【データ1-3】
- ◇ 1人1台端末等の活用により児童生徒にICT活用を指導できる教員の割合は増加傾向にある。【データ1-4】



中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

- ✓ 育成を目指す3つの資質・能力（※）のうち、低下傾向にある学習意欲（「学びに向かう力、人間性等」）の向上が必要
 - 基本目標1 「1 確かな学力の育成」に整理
- ✓ 社会性や人間性を育むため読書活動など多様な体験活動の機会の確保・充実が必要
 - 基本目標1 「2 豊かな心の育成」に整理
- ✓ 食習慣・生活習慣の改善やむし歯予防対策の一層の推進が必要
 - 基本目標1 「3 健やかな体の育成」に整理
- ✓ 授業でICT機器をほぼ毎日使用していると回答する児童生徒の割合が低いことから、授業における効果的な活用の推進が必要
 - 基本目標3 「3 DXの推進によるきめ細かな教育の展開」に整理

※「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」

参考データ（現行計画目標指標の推移）

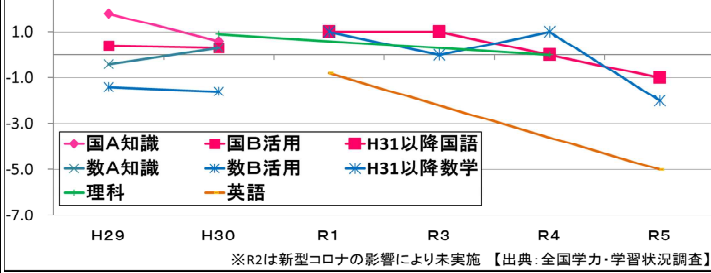
【データ1-1】

児童生徒の学力

（全国平均正答率との比）（％）

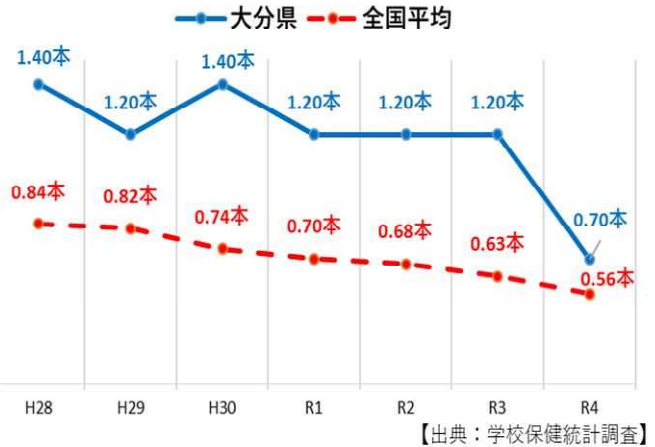


<参考> 中学校第3学年 教科別 全国平均正答率との差の推移



【データ1-3】

12歳児一人平均のむし歯本数(本)



【データ1-2】

1か月に1冊も本を読まない
児童生徒の割合（％）



【データ1-4】

I C T活用を指導できる教員の割合
（％）



基本目標 2	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成		
	施策	1	グローバル社会を生きるために必要な「総合力」の育成

<目指してきた方向性>

- グローバル人材に触れる機会、留学や海外大学への進学等の機運の醸成や情報提供の充実
- 国際交流や異文化理解の推進、郷土学習の充実等を通じた、多様な文化を尊重できる態度や郷土や国を愛する心の育成
- 世界トップレベルの大学と連携して専門的な分野で世界と渡り合えるグローバル人材の育成

<主な成果と課題>

- ◇ グローバル人材として活躍するための素地を備えた割合は約 6 割を超えて、増加傾向にある。【データ2-1】
- ◆ その中で、海外への挑戦意欲や英語でのコミュニケーション力に関する質問項目に対して肯定的な回答をした割合が低い傾向にある。【データ2-2】

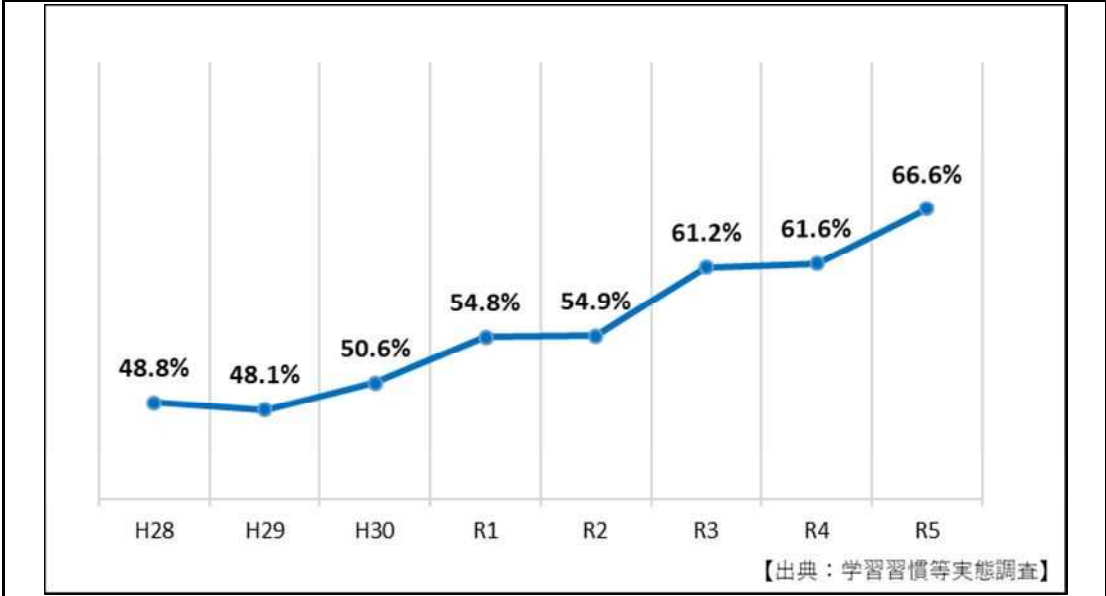


中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

- ✓ 世界に挑戦し、新しいものを創り出す創造力や他者と協働し、チームで問題を解決するための基盤となる力を総合的に育成する必要
 - 基本目標 2 「2 グローバル人材の育成」に整理
- ✓ 他国を尊重する態度や新しい価値を創造する力、英語力（語学力）を用いたコミュニケーション能力などの育成が必要
 - 基本目標 2 「2 グローバル人材の育成」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

【データ2-1】 グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合（高2）（%）



【データ2-2】 グローバルに活躍する資質・能力の状況（%）

質問項目	肯定的な回答をした生徒					
	H27	R元	R2	R3	R4	R5
外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思いますか。	29.3%	32.9%	31.9%	34.0%	31.8%	37.9%
英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができますか。	19.3%	29.7%	27.2%	31.1%	31.1%	36.6%
自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力することができますか。	84.4%	87.4%	90.0%	93.6%	93.5%	94.3%

【出典：学習習慣等実態調査】

基本目標 3	安全・安心な教育環境の確保		
	施策	1	いじめ対策の充実・強化
		2	不登校対策等の充実・強化
		3	安全・安心な学校づくり推進

<目指してきた方向性>

- いじめ、不登校など生徒指導上の諸課題の未然防止と事案への的確な対応を図るため、学校が家庭、福祉や警察等の関係機関・団体と連携した組織的な取組への支援の充実
- 一人一人が安全で安心して学べる教育を推進するため、学校の生徒指導体制及びスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等を活用した教育相談体制の充実
- 地域の実情に応じた防災教育など学校安全に関する取組を推進

<主な成果と課題>

- ◇ 本県の児童生徒1,000人当たりのいじめ認知件数は全国平均を上回っている。一方で、いじめの解消率は全国平均程度である。【データ3-1】
- ◆ 本県の小・中・高校の不登校児童生徒数は増加傾向。全国と比較して小学生の不登校出現率は減少傾向にあるが、中学生は上回る状況が続いている。【データ3-2】
- ◇ 学校の立地環境等に応じた防災教育をほぼ全ての学校で実施している。【データ3-3】

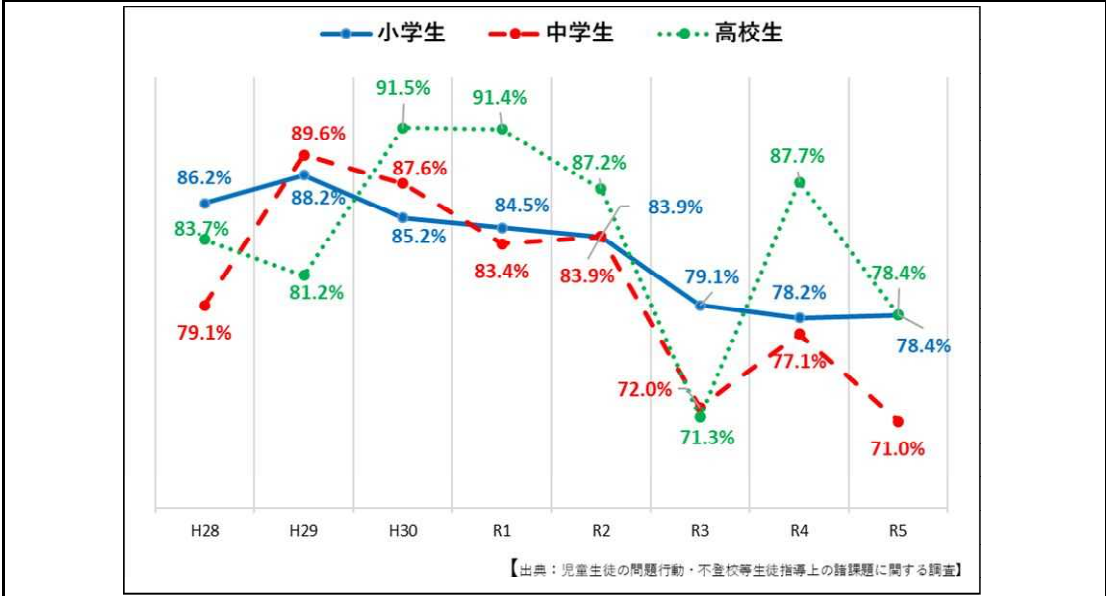


中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

- ✓ いじめ認知件数に対する解消率の向上に向けて、専門的なスタッフの活用等による組織的な対応の強化が必要
 - 基本目標 3 「1 いじめ・不登校対策の充実・強化」に整理
- ✓ 不登校対策について、魅力ある学校づくりや個に応じた効果的な支援、関係機関等と連携した支援が必要
 - 基本目標 3 「1 いじめ・不登校対策の充実・強化」に整理
- ✓ 自らの安全を確保することができる基礎的な資質・能力を継続的に身に付けさせることが必要
 - 基本目標 3 「2 安全・安心な教育環境の整備」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

【データ3-1】 いじめの解消率（%）



【データ3-2】 不登校児童生徒の出現率の全国との比（%）



【データ3-3】 学校の立地環境等に応じた防災教育の実施率（%）



基本目標 4	信頼される学校づくりの推進		
	施策	1	「芯の通った学校組織」の取組の深化
		2	教職員の意識改革と資質能力の向上
		3	魅力ある高等学校づくりの推進

<目指してきた方向性>

- 「芯の通った学校組織」を基盤とした学校の組織的課題解決力向上の取組の継続・発展を図りつつ、各学校が抱える課題の解決に向けた組織的な取組の推進
- 学校の目標を家庭・地域と共有するなど学校教育の透明性を確保しつつ、それぞれが目標達成に向けて連携を進めていく学校・家庭・地域の協働を推進
- 未来を切り拓く力と意欲を身に付けさせる教育を推進するため、教職員の意識改革と資質能力の一層の向上

<主な成果と課題>

- ◇ 学校の目標達成に向けた組織的な取組を推進するため、学校評価を活用した学校・家庭・地域による協議が9割以上の学校で実施されるようになった。【データ4-1】
- ◇ 学校が地域住民等と目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育むコミュニティ・スクールの導入が約9割の小・中学校で進んだ。【データ4-2】
- ◇ 教職員研修に占めるweb研修の割合が約5割に増加したことで、質の高い授業づくりや自身の資質向上に取り組む時間の確保ができた。【データ4-3】



中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

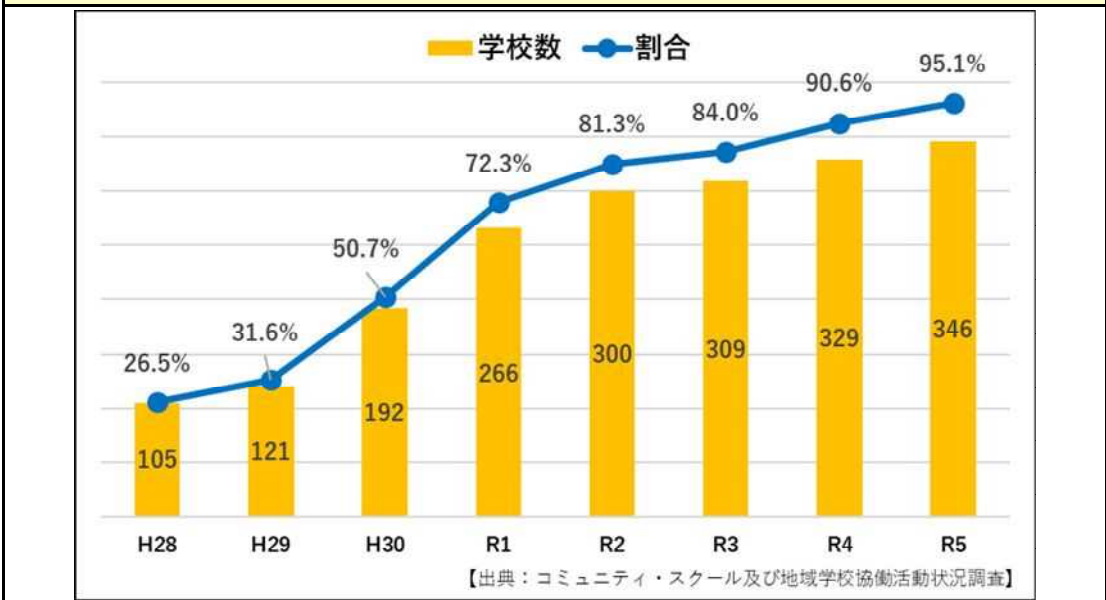
- ✓ 学校マネジメントを機能させて持続的・発展的な教育活動を推進するため、学校が地域と連携・協働する「地域とともにある学校づくり」の推進が必要
 - 図 基本目標 4 「1 学校マネジメントを活用した組織的な取組の推進」に整理
- ✓ 学校運営協議会委員として学校運営に携わる地域学校協働活動推進員等の充実が必要
 - 図 基本目標 4 「1 学校マネジメントを活用した組織的な取組の推進」に整理
- ✓ ICTの活用による業務効率化など、学校における働き方改革は一定の成果が見られるものの、子どもたちへのより良い教育のために取組を加速させる必要
 - 図 基本目標 4 「2 教育指導体制の充実・強化」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

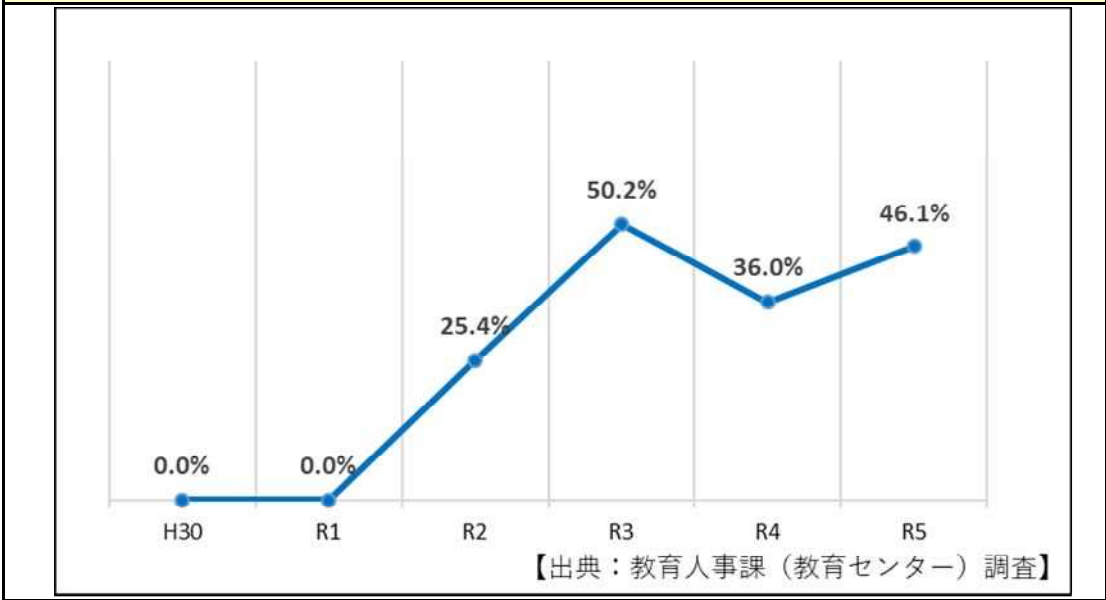
【データ4-1】 学校評価に基づく改善策に関する家庭・地域との協議の実施率（小・中学校）（%）



【データ4-2】 コミュニティ・スクールを導入した学校の割合（%）



【データ4-3】 教職員研修に占めるWeb研修の割合（%）



基本目標 5	変化の激しい時代を生き抜く生涯を通じた学びの支援		
	施策	1	多様な学習活動への支援
		2	社会全体の「協育」力の向上
		3	コミュニティの協働による家庭教育支援の推進

<目指してきた方向性>

- 生涯学習に関する講座や施設などの学習情報の提供や、公民館・図書館などの関連施設の機能の向上
- 社会の要請に応じた学習機会の提供と個人、団体、地域の課題解決につながる学習相談機能の充実
- 「協育」ネットワークを活用した子ども支援を通じて、自らの課題を解決し他者と協働しながら主体的に地域社会の課題解決を担うことができる地域住民の育成

<主な成果と課題>

- ◆ 公立図書館の利用者数は新型コロナの影響による利用制限等により急激に減少した。【データ5-1】
- ◇ 生涯学習情報提供システムへのアクセス件数は内容の充実や情報発信の強化により増加傾向にある。【データ5-2】
- ◇ 「協育」ネットワークの取組に参加する地域住民の数は新型コロナの影響により減少したものの、活動再開等により再び増加傾向にある。【データ5-3】

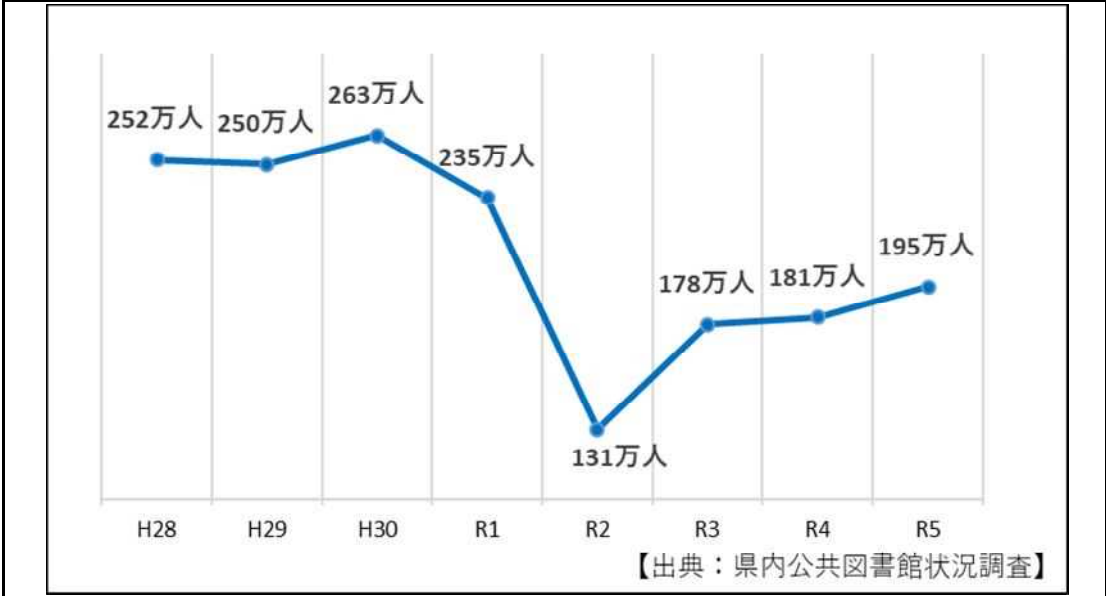


中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

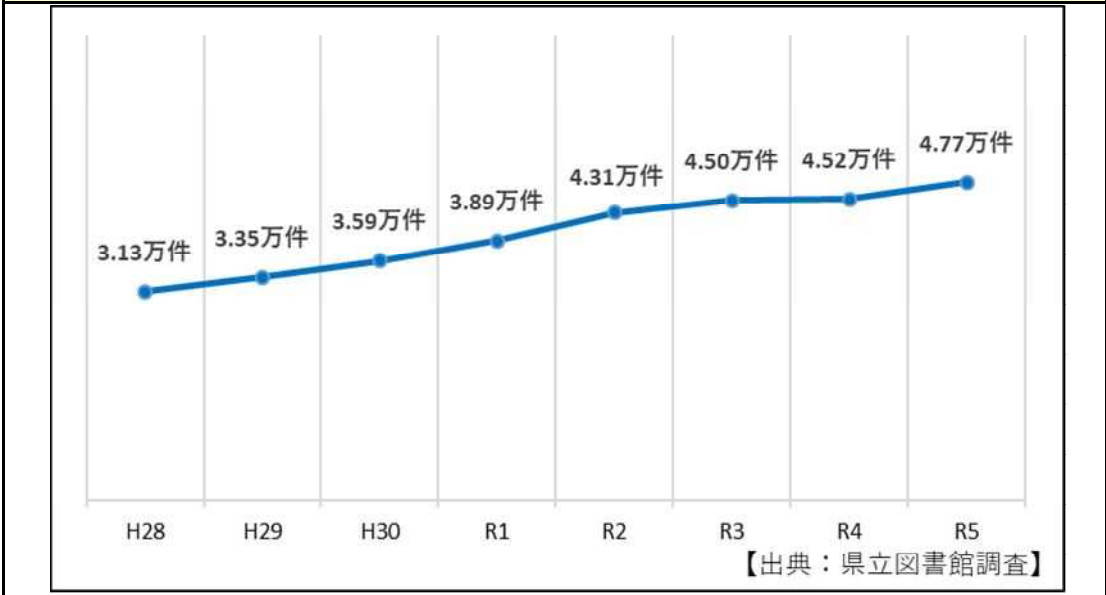
- ✓ 県民が生涯にわたり学び続けることができる環境づくりのため、現代的・社会的な課題に対応した学習機会の充実が必要
 - 基本目標 5 「1 生涯学び、活躍できる環境の整備」に整理
- ✓ 多様化・高度化する学習ニーズへの対応に加え、学びの成果を地域活動等に活かすことができる学びの好循環の実現が必要
 - 基本目標 5 「1 生涯学び、活躍できる環境の整備」に整理
- ✓ 「協育」ネットワークを基盤として、地域の活力を支える人材の育成と地域コミュニティの活性化につなげていくことが必要
 - 基本目標 5 「2 地域コミュニティの基盤を支える社会教育の推進」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

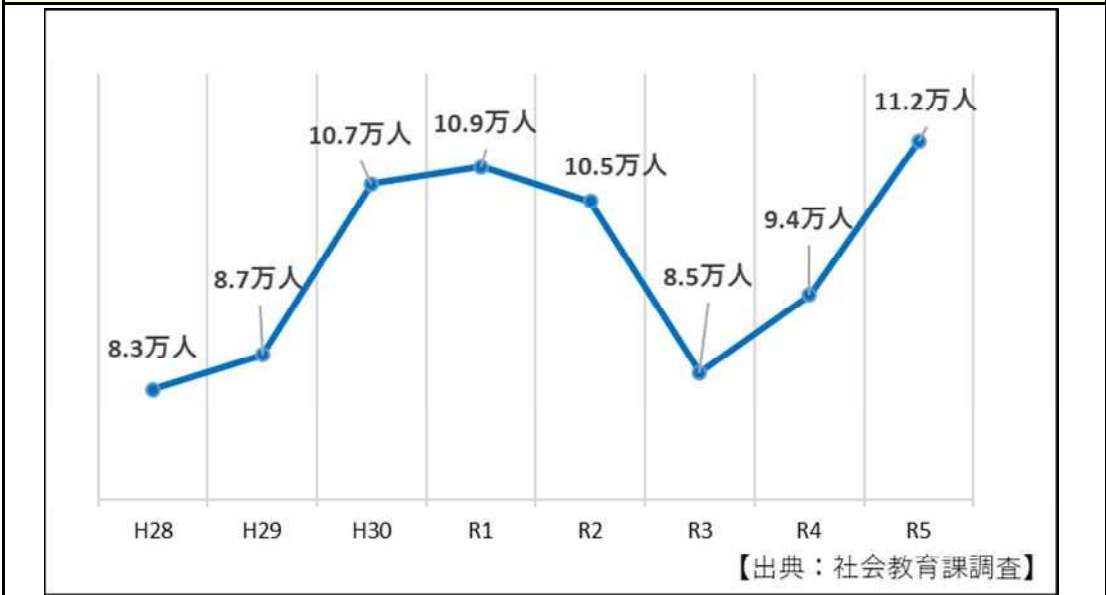
【データ5-1】 公立図書館の利用者数（万人）



【データ5-2】 生涯学習情報提供システムのインターネット講座アクセス件数（万件）



【データ5-3】 「協育」ネットワークの取組に参加する地域住民の数（万人）



基本目標 6	文化財・伝統文化の保存・活用・継承		
	施策	1	文化財・伝統文化の保存・活用・継承

<目指してきた方向性>

- 県内の各地域の文化財・伝統文化を守り育てるとともに、次世代に継承していくために、国や県の指定・選定・登録制度の活用
- 積極的な情報発信を通じた、県民が文化財・伝統文化について親しむ機会や理解を深める機会の充実と継承者育成の取り組みの推進

<主な成果と課題>

- ◆ 地域計画の策定に取り組んでいる市町村は少しずつ増加しているが、現時点で未着手の市町村もある。【データ6-1】
- ◆ 県立歴史博物館・先哲史料館・文化財センターの利用者数は新型コロナウイルス感染症の影響による休館等により急激に減少したものの、その後は少しずつ増加傾向にある。【データ6-2】

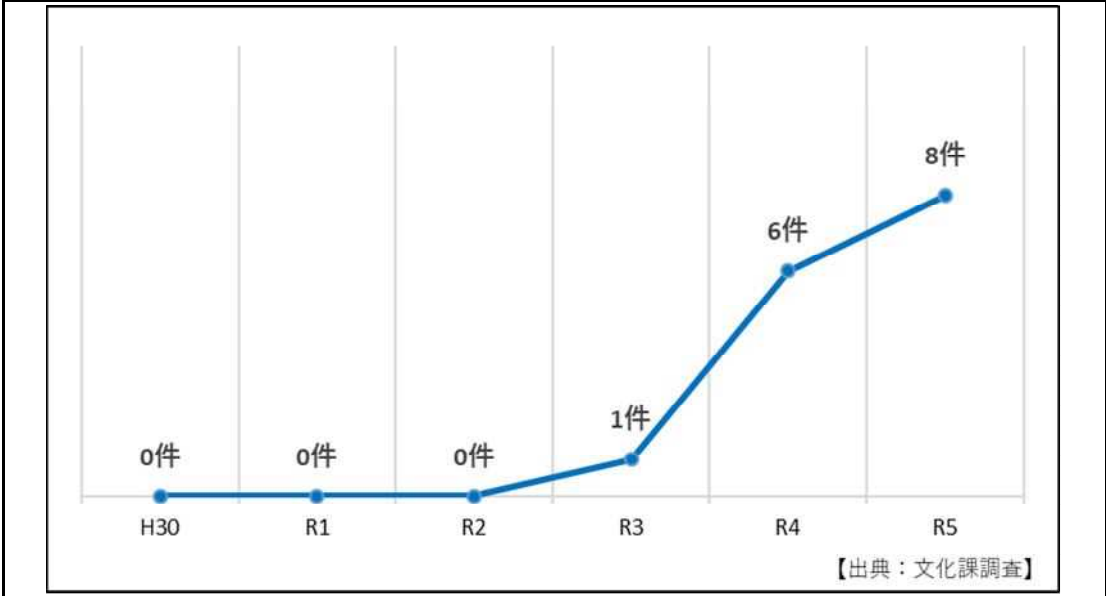


中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

- ✓ 地域の誇りや絆、アイデンティティーの根源でもある文化財を文化的特色を活かした地域づくりに繋げるなど、次世代への確実な継承が必要
 - 図 基本目標 6 「文化財・伝統文化の保存・継承と魅力発信」に整理
- ✓ 県民が文化財・伝統文化に親しみ、理解を深めるためには文化財のデジタル・アーカイブ化などを通じた、積極的な情報発信が必要
 - 図 基本目標 6 「文化財・伝統文化の保存・継承と魅力発信」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

【データ6-1】 文化財の保存・活用に関する市町村の地域計画の策定数（件）



【データ6-2】 県立歴史博物館・県立先哲史料館・県立埋蔵文化財センターの利用者数（万人）



		県民スポーツの推進	
基本目標 7	施策	1	生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成
		2	県民スポーツを支える環境づくりの推進

<目指してきた方向性>

- 青少年の体力を向上させるとともに、人格の形成の機会として活用し、次代を担う人材を育成するためのスポーツ機会の充実
- 心身の健康の保持・増進を図り、健康で活力に満ちた長寿社会を実現するため、幼児から高齢者までのライフステージに応じたスポーツ活動を推進
- 人と地域の交流を促進することで、地域の一体感や活力を醸成し、地域社会の再生に貢献するため、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境を整備

<主な成果と課題>

- ◆ 本県の成人全体の週1回以上のスポーツ実施率は、約50%を超えているものの、国の目標値（70%程度）を下回っている。【データ7-1】
- ◆ 総合型地域スポーツクラブの会員数は増加傾向にあったものの、新型コロナの影響により減少し、それ以降は伸び悩んでいる。【データ7-2】
- ◇ 人口1万人当たりの公認スポーツ指導者登録数は増加傾向にある。【データ7-3】

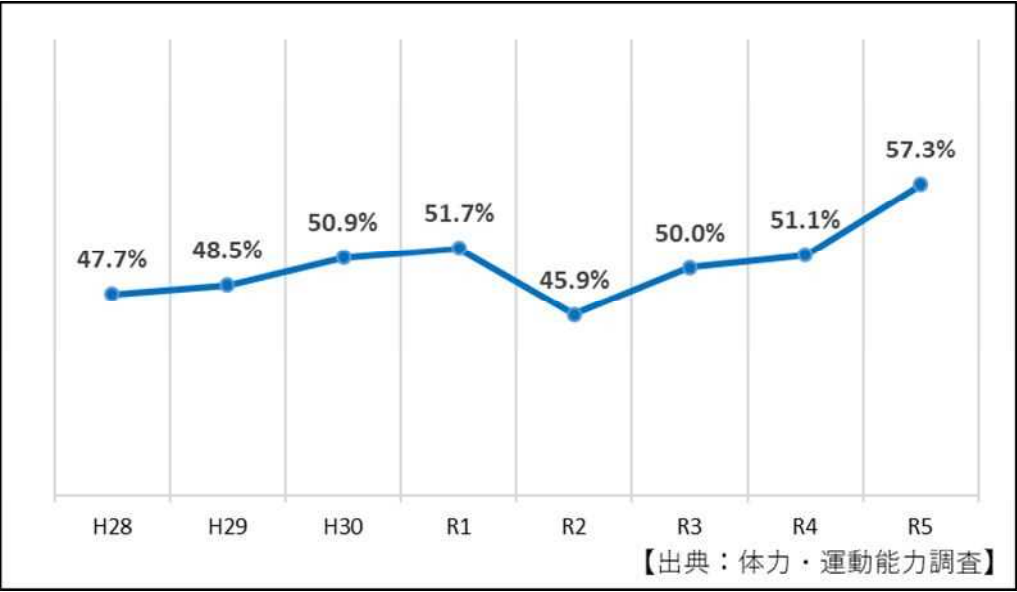


中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

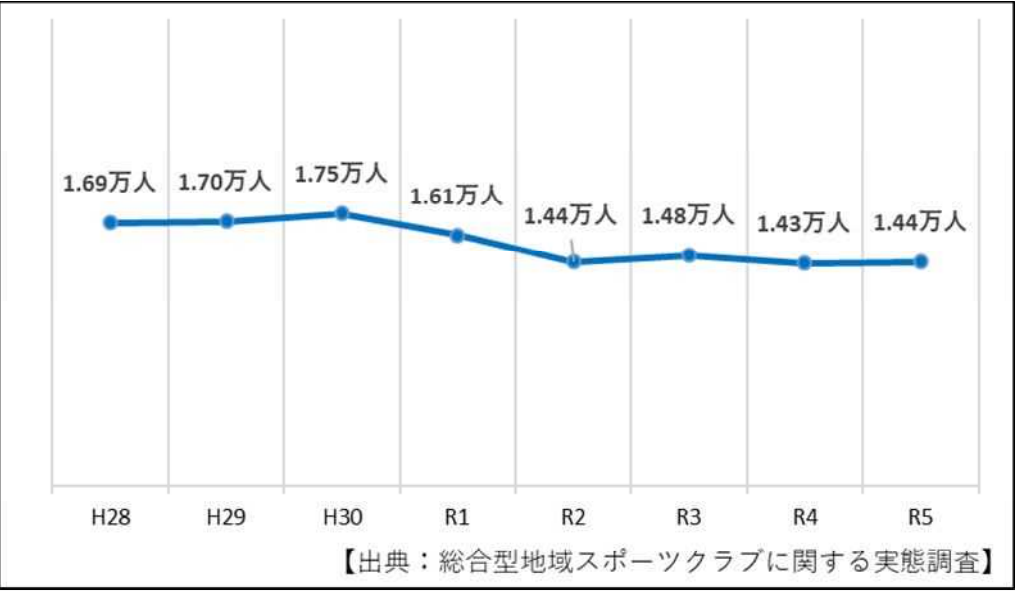
- ✓ 本県のスポーツ実施率（年代別）は30代・40代の子育て・働き盛り世代では50%未満と低いとため、運動・スポーツの実施に関する更なる意識啓発が必要
 - 図 基本目標 7 「1 生涯にわたってスポーツに親しむ機会の充実」に整理
- ✓ 既存施設の点検評価や市町村との役割分担等も踏まえ、県民のニーズに応じたサービスが提供できるスポーツ施設の整備・充実が必要
 - 図 基本目標 7 「2 県民スポーツを支える環境づくりの推進」に整理
- ✓ 多様化するスポーツニーズに対応するため、更に多くの質の高い指導者を養成・確保するとともに、有資格指導者の有効活用が必要
 - 図 基本目標 7 「2 県民スポーツを支える環境づくりの推進」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

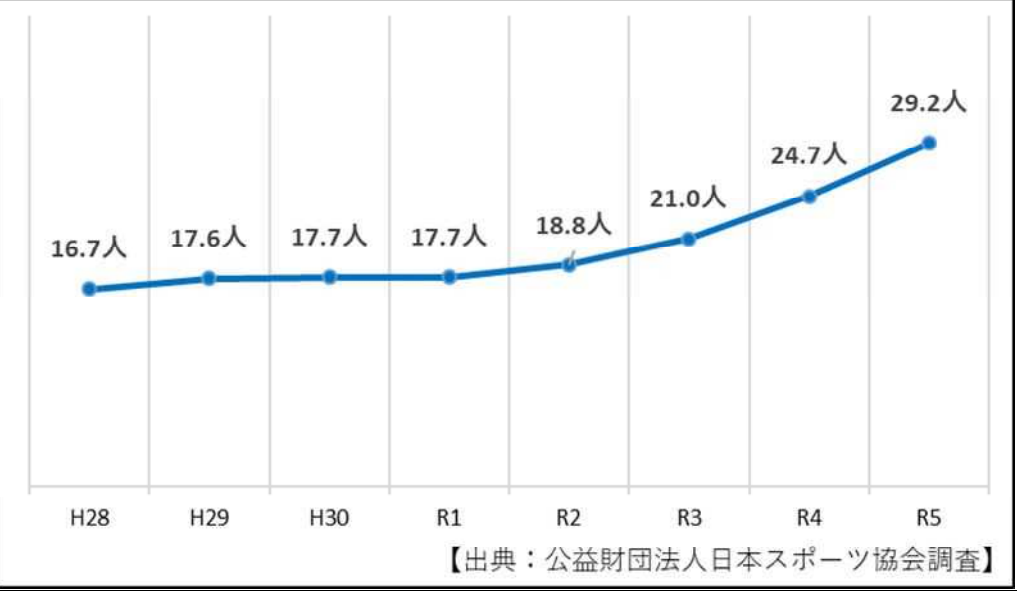
【データ7-1】 成人の週1回以上のスポーツ実施率（%）



【データ7-2】 総合型地域スポーツクラブの会員数（万人）



【データ7-3】 人口1万人当たりの公認スポーツ指導者登録数（人）



基本目標 8	世界に羽ばたく選手の育成		
	施策	1	世界に羽ばたく選手の育成

<目指してきた方向性>

- 優れた資質を有するジュニア選手の発掘に取り組むとともに、小・中・高等学校を通じた一貫指導体制の整備
- 国内外の大会において本県出身選手が活躍できるよう、競技力強化体制の整備や、競技団体への支援
- 国内外の大会での活躍に向けて本県出身選手の競技力を向上させるため、次代を担う指導者の養成・確保

<主な成果と課題>

- ◆ 国際大会に出場した選手は、新型コロナウイルスの影響による大会の中止等で減少したものの、その後は着実に増加している。【データ8-1】



中長期的に取り組むべき課題（新たな計画の策定に向けて）

- ✓ 優れた才能を持ったジュニア選手を発掘し、長期的視点に基づく継続的な育成・強化、選手のライフステージに応じた多様なニーズに応えられる指導力の高い指導者の養成が必要
 - 図 基本目標 7 「3 世界に羽ばたく選手の育成」に整理

参考データ（現行計画目標指標の推移）

【データ8-1】 国際大会出場者数（人）

